

# 第38回近畿作業療法学会

The 38th Kinki Occupational Therapy Congress

みえる わかる かわる  
伝える 伝わる 作業療法



キンキ  
カサゴ目カサゴ亜目フサカサゴ科メバル亜科キチジ属

会 期 平成30年 7月22日(日) 9:00~17:10  
会 場 大阪国際交流センター  
主 催 近畿作業療法士連絡協議会  
担 当 一般社団法人 大阪府作業療法士会  
学会長 辻 薫 (大阪発達総合療育センター)



# 第38回 近畿作業療法学会

The 38<sup>th</sup> Kinki Occupational Therapy Congress

みえる わかる かわる  
伝える 伝わる 作業療法

会 期 ● 2018年 7月22日(日)

会 場 ● 大阪国際交流センター

学会長 ● 辻 薫 社会福祉法人 愛徳福社会 大阪発達総合療育センター

主 催 ● 近畿作業療法士連絡協議会

担 当 ● 一般社団法人 大阪府作業療法士会

後 援 ● 大阪府

大 阪 市

一般社団法人 大阪府医師会

一般社団法人 大阪府病院協会

一般社団法人 大阪府私立病院協会

公益社団法人 大阪府看護協会

公益社団法人 大阪介護老人保健施設協会

公益社団法人 大阪府診療放射線技師会

公益社団法人 大阪府鍼灸師会

公益社団法人 大阪介護支援専門員協会

公益社団法人 大阪府柔道整復師会

公益社団法人 大阪府臨床検査技師会

公益社団法人 大阪社会福祉士会

一般社団法人 大阪府地域福祉推進財団

社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会

一般社団法人 日本福祉用具・生活支援用具協会

公益社団法人 大阪府歯科衛生士会

一般社団法人 大阪精神保健福祉士会

公益社団法人 大阪府理学療法士協会

一般社団法人 大阪府言語聴覚士会

一般社団法人 日本作業療法士協会

第38回 近畿作業療法学会 事務局

〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1

関西福祉科学大学 保健医療学部内

E-mail: kinkiot38@outlook.jp

# INDEX

---

実施要項	1
日本作業療法士協会長 祝辞	3
学会長あいさつ	4
参加者の皆さまへ	5
座長の皆さまへ	8
発表者の皆さまへ	8
表彰について	11
託児室のご案内	11
会場への交通案内	12
会場案内	13
日程表	14
プログラム	16
教育講演	33
実践報告	35
府民公開講座	41
ワークショップ	49
アート・パフォーマンスセッション	50
ランチョンセミナー	54
近畿作業療法士連絡協議会 連携4事業報告	59
緊急報告会	65
みえる・わかる展示／伝える・伝わる相談	66
福祉事業所 授産製品販売・企業展示	66
一般演題(口述)	71
一般演題(ポスター)	129
第38回近畿作業療法学会 学会組織	157
協賛一覧	158

# 実施要項

The 38<sup>th</sup> Kinki Occupational Therapy Congress

## 第38回 近畿作業療法学会

- 会 期 2018年7月22日(日)
- 会 場 大阪国際交流センター  
〒543-0001 大阪府大阪市天王寺区上本町8丁目2-6  
TEL : 06-6772-6729 FAX : 06-6772-7600
- 学 会 長 辻 薫  
社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター
- テ ー マ みえる わかる かわる  
伝える 伝わる 作業療法
- 主 催 近畿作業療法士連絡協議会
- 担 当 一般社団法人 大阪府作業療法士会
- 事 務 局 〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1  
関西福祉科学大学 保健医療学部内  
TEL : 072-978-0088  
E-mail : kinkiot38@outlook.jp



# 日本作業療法士協会長 祝辞

## 第38回近畿作業療法学会を祝して

一般社団法人 日本作業療法士協会  
会長 中村 春基



第38回近畿作業療法学会が辻薫学会長の下、関係各位の熱心なご準備により盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

本学会は『みえる わかる かわる 伝える 伝わる 作業療法』をテーマに、「リハビリテーションの街づくり」「アメリカと日本におけるスクールOT」「アートパフォーマンス」「福祉事業所による販売」「機器展示」など、多岐にわたるプログラムが用意されています。いずれのプログラムも多くの作業療法士の興味に応え、また一般市民に作業療法の素晴らしさを感じてもらえる学会になると確信しております。協会長としましても心より感謝申し上げます。

さて、平成30年度は医療・介護・福祉の同時改定で幕が開けました。地域共生社会、一億総活躍の指針のもと、作業療法においても「活動と参加」あるいは地域包括ケアシステム等々の中で、生活を中心とした作業療法の実践が求められています。協会ではこの激変する社会の変革への対応の一つとしてMTDLPを推進しており、近畿府県士会におかれましても積極的な取り組みを進めていただいていることに心より感謝しております。引き続き、県民にMTDLPによる作業療法が提供されることを願っております。

また、大きな変革の一つとして、18年ぶりに養成施設指定規則(カリキュラム)が改変されます。施行は平成32年度の入学生からとなりますが、総単位数が93単位から101単位へ増えるなかで、臨床実習が18単位から22単位へと増えるとともに、訪問・通所リハビリテーション施設における実習も義務化されることになりました。さらに、臨床実習指導者には研修を求めることになり、士会におかれましても臨床実習指導者講習会の開催などで参画をお願いすることになると思いますのでご協力をお願いいたします。

このように、作業療法を取り巻く環境は、地域包括ケアシステムから作業療法士の養成に至るまで、地域に根ざした士会の活動と参画なしでは対応できないものになっています。改めて、県民から信頼される専門職となるよう、士会と協会が共同して取り組む必要を感じています。

最後に本学会において、辻薫学会長はじめ、近畿各府県士会長の皆様の尽力に対し衷心より敬意を表します共に、本学会が近畿の作業療法の益々の発展に寄与することを祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

# 学会長あいさつ

## 第38回近畿作業療法学会の 開催にあたって

第38回近畿作業療法学会  
学会長 辻 薫



第38回近畿作業療法学会は、7月真夏の開催という新しい試み、そして2025年万国博覧会誘致で盛り上がる大阪で開催いたします。

近畿作業療法士連絡協議会では、重要な協同事業として、1. 近畿作業療法学会、2. バリアフリー展、3. 災害対策、4. 地域包括ケア、5. 認知症初期集中支援を重点課題にあげ、学術研鑽、作業療法広報推進活動、災害対策支援活動、人材育成、教育研修に力を注いでいます。

今学会テーマは、「みえる わかる かわる 伝える 伝わる 作業療法」です。

世界に類のない超高齢社会、長寿社会となる日本で、育児、学校教育、就労、メンタルヘルス、介護予防など、子どもから大人まで、あらゆる人々の活動と参加に関わる効果的な作業療法サービスが必要とされています。

子どもに、高齢者に、障害のある人に、みえる、わかる合理的な配慮を工夫して伝え、支援者も含め環境を整備すれば、必ずかわる潜在能力をすべての人は持ち合わせています。

本学会では、「作業をすること」、「作業ができること」で「人はよりよくなる」ことを、わかりやすく、「伝える伝わる作業療法」をミッションとしています。

教育講演は、脳からみたヒトの理解、リハビリテーションを「わかる・伝わる」講演で著名な片山泰一氏と森岡周氏、府民公開講座は、海外から日本が目指す学校作業療法士の実践を「みえる・わかる」ように導いてくださるスバシュニック松田直子氏、日本の未来を予測し、希望と創造によって「かわる」リハビリテーションの街づくりを示して下さる紀伊信之氏にお願いし中村春基協会長にコメントをいただきます。同じく府民公開講座で「認知症の進行期別作業療法」を実践する方々に「伝える」役割を託しています。

また、「伝える伝わる作業療法」として「就労支援」、「特別支援教育」、「地域包括ケア」の実践報告、「作業療法の原点」である素晴らしい「アートパフォーマンス」を披露していただきます。

最後に、学会は参加する会員の皆さんが主役です。演題発表者も質問者も積極的に意見交換し、伝える「作業」と伝わる結果を確認する「作業」をお願いします。

大阪府民、大阪市民、近畿圏域の一般市民の皆様と一体となって、リハビリテーションの街づくりを推進する学びの機会となりますことを祈念します。本学会開催にあたり、ご後援いただいた関係機関及びご協力下さいました皆様に心より感謝申し上げます。

# 参加者の皆さまへ

## 1. 学会参加費について

会員 OT	非会員 OT	他 職 種	学生・一般
日本作業療法士協会会員かつ 近畿2府4県の各作業療法士会会員	左記に該当しない 作業療法士		
事前申込 <u>4,000円</u> (抄録代込み)	<u>10,000円</u>	<u>5,000円</u>	<u>1,000円</u>
当日申込 <u>5,000円</u> (抄録代込み)	(抄録代込み)	(抄録代込み)	(抄録代別)
			抄録代 <u>1,000円</u>

- 作業療法士の学会参加は、会員 OT (日本作業療法士協会会員かつ近畿2府4県の各作業療法士会会員) であることが原則です。
- 会員 OT の事前参加登録は 7月9日 (月) までです。入金メ切も7月9日 (月) までです。
- 会員 OT の方は、会員証をお忘れなくご持参・ご提示ください。  
注) 今年度より、日本作業療法士協会の会員証は、カードの郵送はなく、会員ポータルサイト (<https://www.jaot.net/mm/portal>) から、ご自身の会員サイトにログインしての会員証の確認となります。2018年度の会費を納めていなければ、会員証が表示されませんので、早めに2018年度の会費をお支払いください。当日は、プリントアウトしたもののご提示をお願いいたします。
- 会員証の提示がない方は非会員 OT の扱いになりますので、ご注意ください。
- 会員 OT で、かつ学生 (学部生・大学院生) の方は、会員 OT としての参加費をお支払いください。
- 近畿2府4県の各府県士会に所属されていない方は、非会員 OT としての参加費をお支払いください。  
※当学会では、原則、非会員 OT は、ないものと考え、学会参加費を高額設定にしています。会員でない方は、会員登録をお済ませください。
- 他職種の方は、所属する職能団体の会員証、または職種の判別できるものをご提示ください。
- 学生の方は、学生証をご提示ください。
- 当日申し込みの方はできるだけお釣りのでないように準備をお願いします。

## 2. 学会参加受付について

【総合受付】 1F アトリウム

【受付時間】 9:00～

【受付方法】

〈会員 OT 受付〉

★事前申し込みの方

- 各所属府県士会受付 (事前申し込み) にてお手続きください。

- 学会「参加 申し込み用紙」(抄録集に綴じ込まれている)に必要事項をご記入の上、提出してください。
- 会員証をご提示ください。「平成30年度(一社)日本作業療法士協会会員証」および「2府4県の会員シール」の両方をご提示ください。
- 参加証兼領収書とネームホルダーおよび学会参加ポイントシールをお渡しします。  
※学会参加ポイントシールの再発行はできませんので、紛失しないようご注意ください。
- 本学会は生涯教育制度単位認定システムに該当します。

#### ★当日申し込みの方

- 各所属府県士会受付(当日申し込み)にてお手続きください。
- 学会「参加 申し込み用紙」(抄録集に綴じ込まれている)に必要事項をご記入の上、提出してください。
- 会員証をご提示ください。「平成30年度(一社)日本作業療法士協会会員証」および「2府4県の会員シール」の両方をご提示ください。当日申し込みの方で、日本作業療法士協会会員証をご提示できない場合は、会員であったとしても「非会員 OT」扱いになりますので、ご注意ください。
- 参加証兼領収書とネームホルダーおよび学会参加ポイントシールをお渡しします。  
※学会参加ポイントシールの再発行はできませんので、紛失しないようご注意ください。
- 本学会は生涯教育制度単位認定システムに該当します。

#### 〈非会員 OT・他職種・学生・一般 受付〉

- 他職種の方は、所属する職能団体の会員証、学生の方は、学生証を提示して学会参加費をお支払いください。
- 参加証兼領収書とネームホルダーをお渡しします。

#### 〈受付を済ませたら〉

参加証に氏名と所属を記入してネームホルダーに入れて首から提げてください。

### 3. 会場内での注意

#### 【ネームホルダーの携帯について】

会場内では、名札の入ったホルダーを常時首から提げてください。名札が確認できない場合は、会場への入場をお断りいたします。

#### 【携帯電話の使用について】

会場内では、携帯電話の電源を切るか、マナーモードでご利用ください。また、会場内での通話をご遠慮ください(学会役員・実行委員は運営上使用する場合があります)。

#### 【撮影、録音について】

会場内での録音、写真、ビデオ撮影等は、撮影が許可されている一部のポスターを除いて、著作権保護・患者様のプライバシー保護の理由により、関係者用の記録用以外は禁止されています。ご理解をお願いいたします。

#### 【質疑応答について】

質問・発言をされる方は座長の指示に従い、所属・氏名を述べてからご発言ください。

#### 【クロークについて】

- 大ホールにクロークがあります。ご利用ください。
- 貴重品、雨具、壊れ物、食品類はお預かりできませんのでご了承ください。
- 17:30までに必ずお引き取りください。

#### 【喫煙について】

会場内は全館禁煙です。

### 4. 昼食について

- 会場内には、レストランがあります。また周辺には、コンビニエンスストア及び飲食店があります。
- ランチョンセミナーを A 会場および B 会場 13:00～13:50 で開催します。  
※ランチョンセミナーに参加される方に A 会場150食・B 会場100食分ご用意しております。

#### 〈配布方法〉

9:30～ アトリウムにて受付を済まされた方から先着計250名分、整理券を配布します。整理券の配布は1人1枚です。

12:50～ 各会場入口前にて整理券とお弁当を交換します。お弁当を持ってランチョンセミナーにご参加ください。

※大ホール・小ホールでの飲食は禁止です。

- D 会場を 12:00～13:00 まで昼食会場としてご利用いただけます。
- 会場で飲食された際のゴミは必ずお持ち帰りください。

### 5. 閉会式および演題表彰

閉会式において、優れた演題に対して表彰を行います。多数の方にご参加いただきますよう、お願いいたします。

## 座長の皆さまへ

- 1) 1F アトリウムにて、各府県士会受付で参加受付を済ませた後に、同フロアにて、座長受付を行ってください。
- 2) 開始10分前までに、ご担当会場にお越しくください。
- 3) プログラムの進行に十分ご配慮いただきますよう宜しくお願いいたします。また発表の形式につきましては以下を参照していただき、円滑な進行となりますようご協力をお願いいたします。

## 発表者の皆さまへ

### 【利益相反の開示】

近年、多くの学会で利益相反（Conflicts of Interest：COI）についての開示を義務づけるようになってきております。この状況に合わせ、第38回近畿作業療法学会でも、演題発表時に、演題発表に関連する企業等とのCOIの有無および状態について申告することを以下に義務づけます。

#### 〈学会発表における利益相反の掲示方法〉

- 口述発表は演題名の次(2枚目)のスライドで開示すること
- ポスター発表はポスターの最下部に開示すること

利益相反のスライド見本につきましては、第38回近畿作業療法学会ホームページよりダウンロードしてください。

### 【口述発表】

#### 1. 口述発表の環境・手続き

- 1) 映写面は各会場ともに1面です。
- 2) 会場で用意しているパソコンをご使用いただきます。パソコンのOSおよびアプリケーションは以下のとおりです。ご自身のPCの持ち込みはできません。
  - ①OS：Windows 7
  - ②アプリケーション：Power Point 2010
- 3) 発表データは、学会当日 USB メモリに保存してご持参ください。  
※トラブルに備え発表データのバックアップCD-R、もしくはDVD-Rをご持参ください。ファイナライズを行っていないCD-R、もしくはDVD-Rについては作成したパソコン以外ではデータを開くことができませんのでご注意ください。
- 4) フォントはOS標準\*のみご使用ください。  
※MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝、Arial、Arial Black、Century、Century Gothic、Times New Roman

- 5) 再生できない等のトラブルが多いことから、動画の使用はお控えください。
- 6) 作成されたデータは、作成した PC 以外で事前に動作確認をしてください。
- 7) 発表データの保存ファイル名は、「演題番号-氏名-所属」としてください。  
(例：018-大阪花子-〇〇病院)
- 8) メディアを介したウイルス感染の事例がありますので、最新のウイルス駆除ソフトで事前にチェックをしてください。
- 9) お預かりしたデータは発表終了後、事務局が責任をもって消去いたします。

## 2. 口述発表の受付

- 1) 1F アトリウムにて、各府県士会受付で参加受付を済ませた後に、各会場の PC にデータ入力をしてください。  
口述発表1～6セッションの発表者は、9:00～9:30の間に  
口述発表7～11の発表者は、12:50～13:20の間をお願いします。  
※混雑することも考え、余裕をもって受付をお済ませください。
- 2) 発表者受付の際に、(一社)日本作業療法士協会生涯教育ポイントシールの発表分をお渡しします。
- 3) 学会で使用する PC で試写されたい方は、受付横に PC を設置しますので、そちらでご確認ください。

## 3. 口述発表方法

- 1) 発表するセッションの10分前には「次演者席」に着席してください。
- 2) 発表および質疑応答は座長の指示に従ってください。
- 3) 発表は全て Power Point による PC プレゼンテーションです。
- 4) 発表は、演台上にセットされているモニター、キーボード、マウスを使用してご自身で操作してください。
- 5) 演題発表時間は7分、質疑応答時間は3分です。発表終了1分前(1回)、終了時(2回)に合図をします。時間遵守にご協力ください。

## 【ポスター発表】

### 1. ポスターの掲示・撤去方法

#### 1) ポスターの貼り付け

9:00～9:30

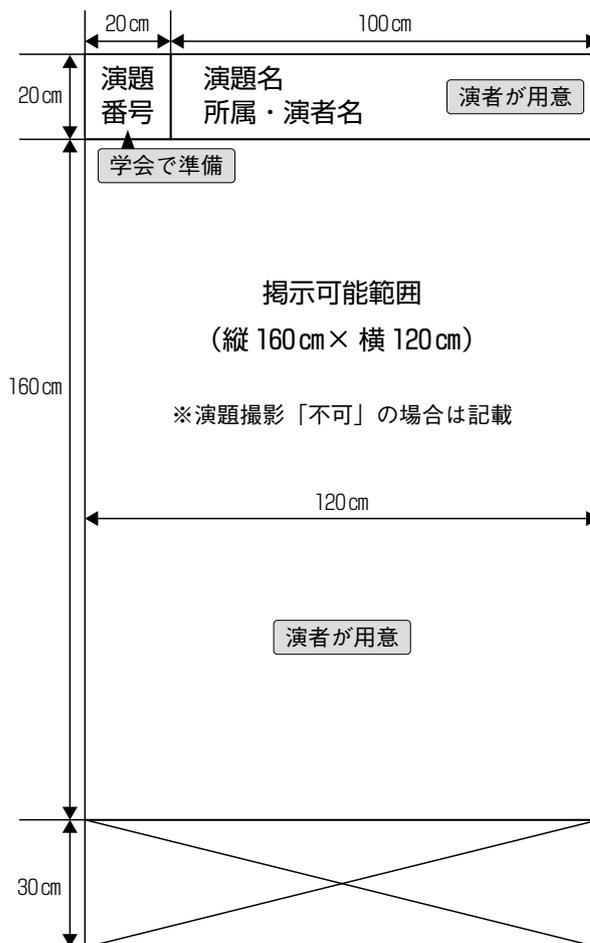
円滑な学会運営のため、ご協力のほどよろしくお願いたします。

#### 2) 学会では、以下のものをご用意いたします。

- 掲示パネル
- 演題番号：掲示パネルの左上部に演題番号を取り付け表示します。
- 画鋏・ピン：ポスターを貼り付けるための画鋏・ピン・セロテープをご用意いたします。

#### 3) ポスターフォームは、右図を参照し、演題名・所属・氏名、本文を作成してください。なお、文字サイズ、フォントの種類、図表・写真などの枚数は特に定めませんが、必ず指定のサイズ内に収まるよう作成してください。

#### 4) ポスターの撤去は、14:30～15:30の間にお願いたします。17:00以降も掲示されているポスターは学会事務局にて処分いたします。



### 2. ポスター発表の方法

#### 1) 1F アトリウムにて、各府県士会受付で参加受付を済ませた後に、ポスター受付(ギャラリー)に直接お越しください。

#### 2) 発表者はセッション開始1時間前までに受付をお済ませの上、各自のパネル前に当該セッション開始10分前までに待機してください。

※司会・座長はいません。

※自身のポスターセッションの時間中は、常にポスターの前に立ち適宜質疑に応じてください。共同研究者と複数で対応していただいても結構です。

※発表内容を補足するため、ご自身で説明資料を準備していただいても結構です。

#### 3) ポスター発表受付の際に、OT 協会生涯教育ポイントシールの発表分をお渡しします。

## 表彰について

### 【審査対象】

本学会で採択された全ての演題を対象とします。

### 【審査方法】

一定の基準に基づいて学会運営担当で厳正なる審議を行った後、学会長が最終的に決定いたします。

#### 〈演題表彰審査基準〉

- 1) 本学会のテーマに沿った発表である。
- 2) テーマや内容に創造性や独自性があり、作業療法の発展に貢献すると判断される。
- 3) 作業療法の目的が適切であり、その目的が倫理的プロセスを踏んで達成されている。
- 4) 他の参加者が聞いて有効な発表内容である。
- 5) 論文構成や表現などが優れている

### 【発表・表彰】

受賞者の表彰は閉会式で行います。

## 託児室のご案内

学会開催中に託児室を開室します。

1歳(12ヶ月)以上のお子様を対象とさせていただきます。利用を希望される方は

①氏名 ②連絡先 ③託児希望人数 ④託児希望時間

をご記入の上メールでお申し込みください。その際、件名に「第38回近畿作業療法学会託児室希望」とご記入し7月1日までにお申し込みください。申し込み確認後、改めてご連絡いたします。

定員は10名とさせていただきます、定員を超えた時点で終了とさせていただきます。なお、当日の受付は行っていませんので、必ず事前申し込みをお願いいたします。

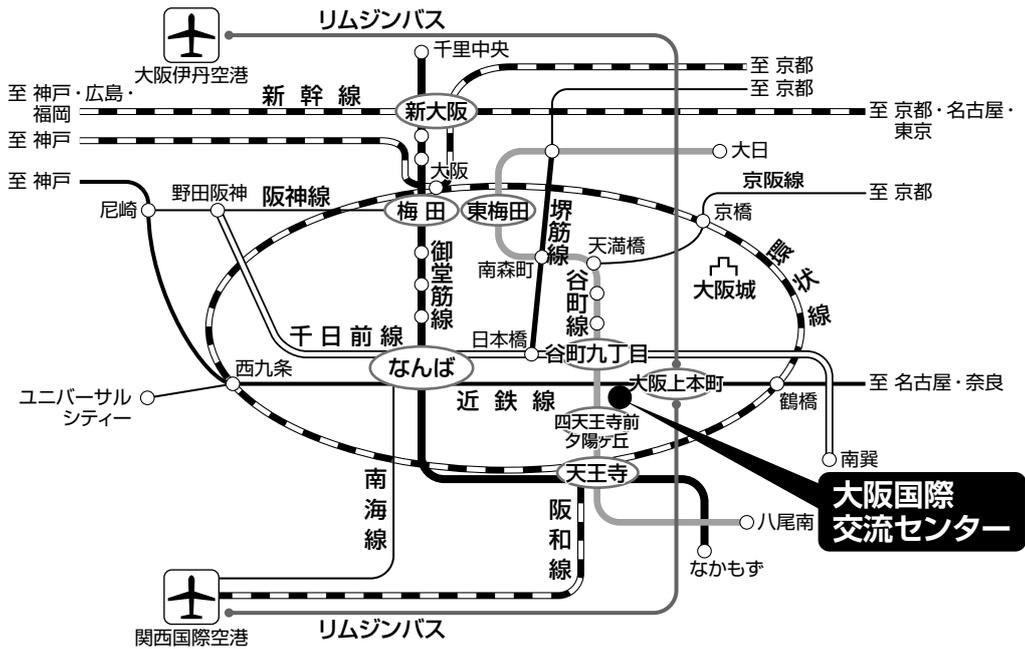
### 【申し込み先】

大阪府作業療法士会事務局内 「第38回近畿作業療法学会託児室受付」

TEL：06-6765-3375 E-mail：jimu@osaka-ot.jp

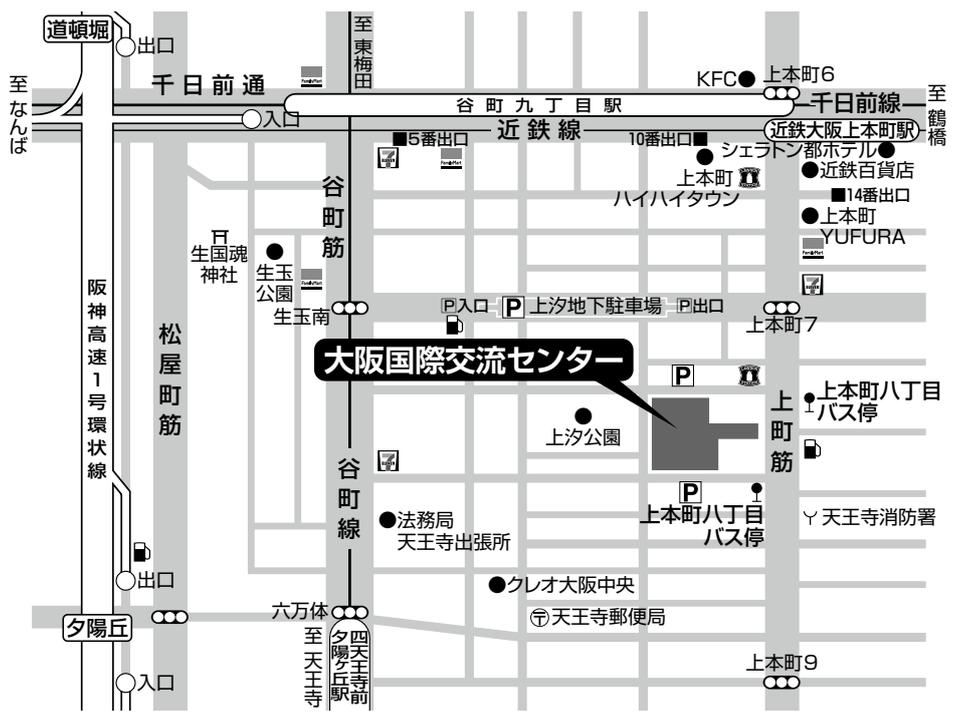
担当：中辻(大阪府作業療法士会 福利厚生部 部長)

# 会場への交通案内



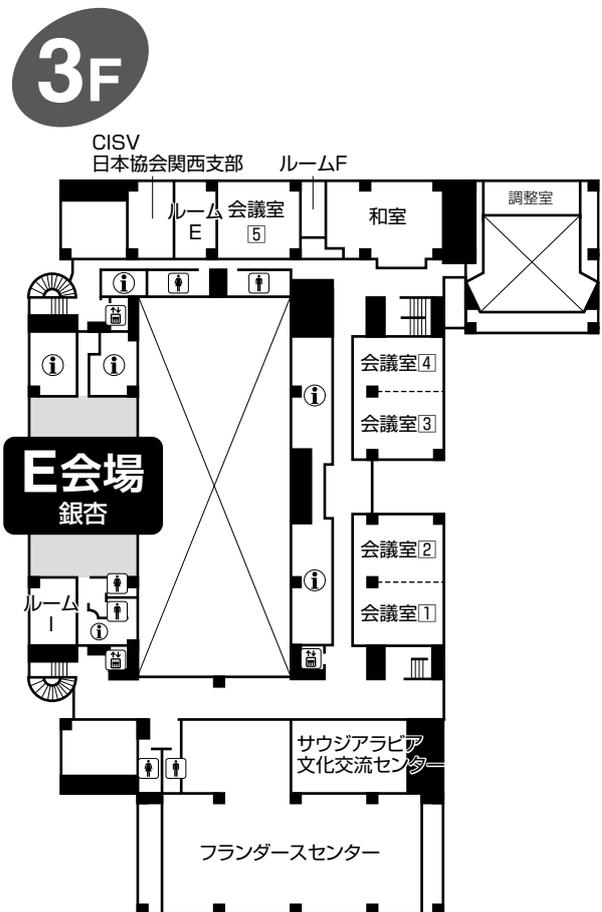
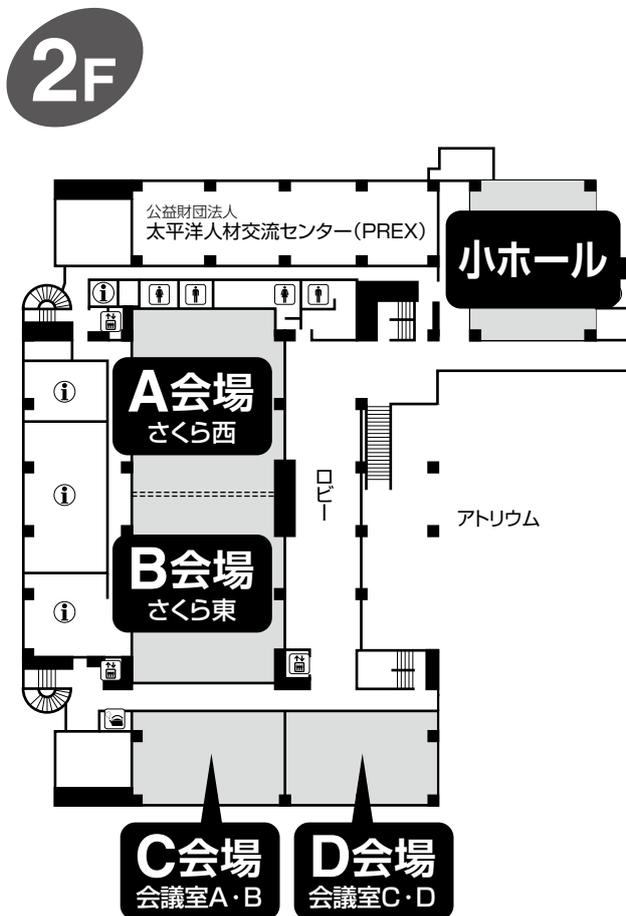
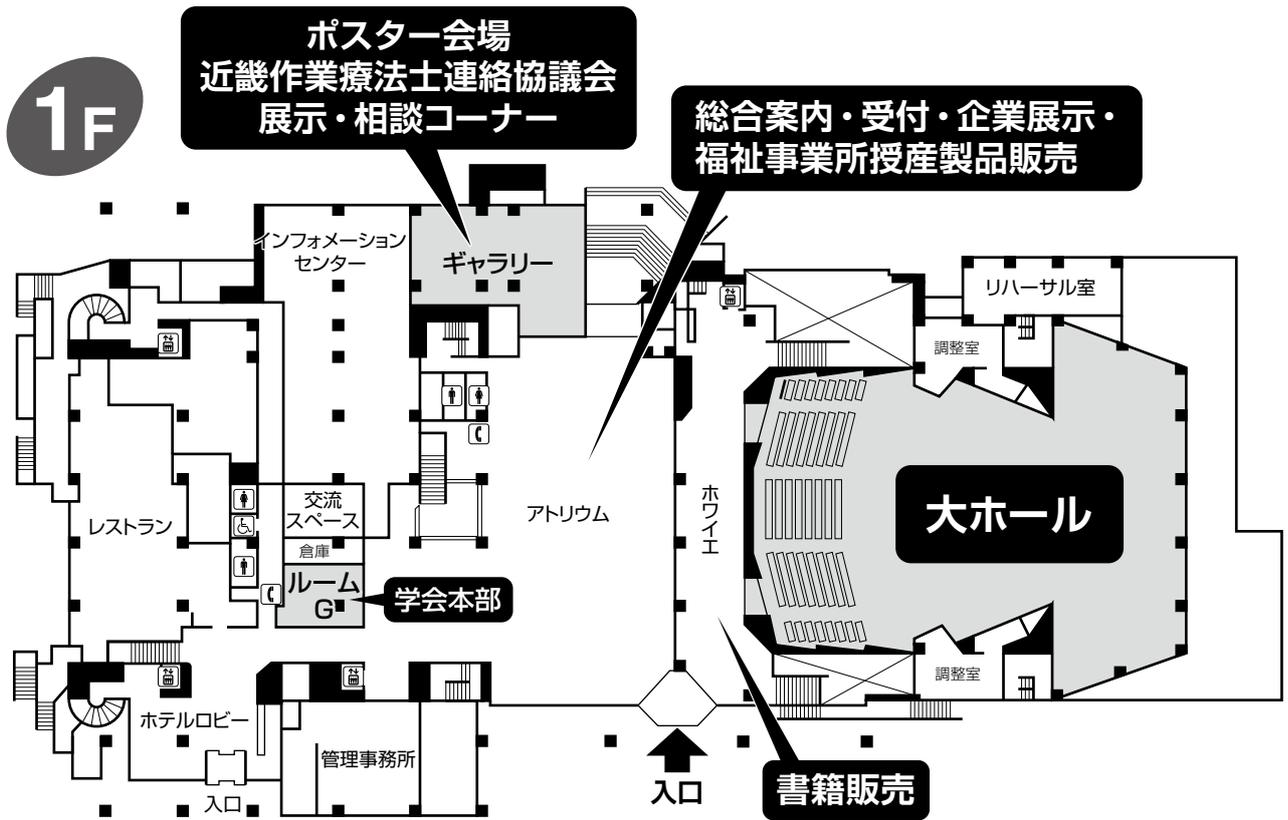
JR新大阪駅	御堂筋線	なんば	千日前線	谷町九丁目駅	10番出口	500m
JR大阪駅	JR環状線	JR鶴橋駅	近鉄線	大阪上本町駅	14番出口	400m
東梅田駅	谷町線		近鉄線	大阪上本町駅	14番出口	400m
天王寺駅	谷町線			谷町九丁目駅	10番出口	500m
大阪空港	リムジンバス(上本町線)			四天王寺前夕陽ヶ丘駅	1番出口	500m
関西国際空港	リムジンバス(上本町線)			バス停「上本町」		400m
				バス停「上本町」		400m

大阪国際交流センター



自動車での入構はできません。会場までは公共交通機関をご利用ください。

# 会場案内



# 日程表

2018年 7月22日(日) 大阪国際交流センター

	大ホール 1階	A 会場 2階 さくらホール西	B 会場 2階 さくらホール東	C 会場 2階 会議室 A・B
9:00	9:00～ 受付開始			
	9:40～10:00 開会式			
10:00	10:00～11:20 <b>教育講演1</b> 脳科学的知見を取り入れた ヒトの理解 —可視化によって理解可能な 社会の実現をめざして— 講師：片山 泰一 (大阪大学大学院連合小児発達研究科) 司会：辻 薫			10:00～10:50 <b>口述発表1</b> 発達障害 O1-1～5 座長：松本 明歩
11:00				11:00～11:50 <b>口述発表3</b> 生活・行為／地域 O3-1～5 座長：白岩 圭悟
	11:30～12:50 <b>教育講演2</b> ニューロリハビリテーションの 目指すべき方向性 講師：森岡 周(畿央大学) 司会：酒井 浩	11:30～12:50 <b>実践報告1</b> 特別支援教育とOT —学校で子どもを支える ～近畿圏での実践と これからの課題～ 近畿2府4県各作業療法士会 司会：西口 あずさ	11:30～12:50 <b>実践報告2</b> 就労支援を考える ～支援機関と企業の立場より～ 講師：金川 善衛 (茨木病院デイケアセンター) 奥脇 学 (有限会社奥進システム) 司会：芳賀 大輔	12:00～12:50 <b>口述発表5</b> 地域 O5-1～5 座長：安井 敦史
12:00				
13:00		13:00～13:50 <b>ランチョンセミナー1</b> 痙縮に対するボツリヌス療法 講師：三岡 信二郎 (グラクソ・スミスクライン株式会社) 協力：グラクソ・スミスクライン株式会社	13:00～13:50 <b>ランチョンセミナー2</b> 随意運動介助型電気制御装 置と装具療法を用いた脳卒中 片麻痺の上肢機能アプローチ 講師：竹林 崇(吉備国際大学) 協力：川村義肢株式会社	13:30～14:20 <b>口述発表7</b> 精神・認知機能 O7-1～5 座長：前谷 一旗
14:00	14:00～15:20 <b>府民公開講座1</b> 認知症の進行期別での 作業療法の役割 講師： 河合 晶子(三重県医療保健部 長寿介護課) 仙波 梨沙(西九州大学) 上田 章弘(介護老人保健施設 恵泉) 木瀬 憲司(森之宮病院) 司会：松下 太	14:00～15:20 <b>ワークショップ</b> 地域包括ケア ひと・まちを元気にできる OTの可能性 ～生活課題の解決に向けた 近畿2府4県の実践報告～ 司会・進行：藤原 太郎 浅田 健吾	14:00～15:20 <b>府民公開講座2</b> アメリカのスクール OT の 現場から 講師： スパシユニック 松田 直子 (Montgomery County Public School, Maryland.) 司会：西口 あずさ	
15:00				
	15:30～16:50 <b>府民公開講座3</b> リハビリテーションと街づくり 講師：紀伊 信之 (株式会社日本総合研究所) コメンテーター：中村 春基 司会：辻 薫			
16:00				
17:00	16:50～17:10 閉会式			

D 会場 2階 会議室 C・D	E 会場 3階 銀杏	ポスター会場 1階 ギャラリー	アトリウム ホワイエ 1階	アート・パフォーマンス 2階 小ホール	
			総合案内 受付	司会進行：松本 祥平	9:00
10:00～10:50 <b>口述発表2</b> 発達・精神障害 O2-1～5 座長：吉田 文	10:00～11:00 学会特別企画1 緊急報告会 厚生労働省 「理学療法士・作業療法士 学校養成施設カリキュラム等 改善検討会」報告 講師：高畑 進一(大阪府立大学) 司会：内藤 泰男	10:00～10:50 <b>ポスター発表1</b> 身体障害1/ その他 P1-1～9	10:00～ 16:50  書籍販売  機器展示  福祉事業所 製品販売  有機野菜 販売	10:00～10:30 アートを通じて地域と関わる 木村 基(紙囃みクラブ)	10:00
11:00～11:50 <b>口述発表4</b> 身体障害1/その他 O4-1～5 座長：浅井 康紀	11:10～11:50 近畿作業療法士連絡協議会 連携4事業報告 司会：関本 充史	11:00～11:50 <b>ポスター発表2</b> 身体障害2/ 精神障害 P2-1～9		10:40～11:10 けん玉という作業を体験しよう 村橋 大輔(慶生会訪問看護 ステーション四條畷出張所)	11:00
	12:00～12:50 <b>口述発表6</b> 身体障害2/教育 O6-1～5 座長：岡山 友哉	12:00～12:50 学会特別企画2 近畿作業療法士 連絡協議会		11:20～11:50 ニューロダンス 橋本 弘子(森ノ宮医療大学)	11:00
				12:00～12:30 OT フラ 今 かおり (OT フラダンス代表)	12:00
みえる・わかる展示コーナー： バリアフリー展での推進活動・災害対策支援 伝える・伝わる相談コーナー： 認知症支援・生活行為向上マネジメント(MTDLP)				菅 寿恵(子ども発達スクール かすたねっと)	
		13:00～13:50 <b>ポスター発表3</b> 発達/地域 P3-1～10		13:00～13:30 有畜農業を取り入れた 循環セラピー ～ホースキッズスクール(乗馬療法)+ リトルファーマーズ(園芸療法)～	13:00
13:30～14:20 <b>口述発表8</b> 身体障害3 O8-1～5 座長：毛利 陽介	13:30～14:20 <b>口述発表9</b> 身体障害4 O9-1～5 座長：西田 裕希			13:40～14:10 車いすダンス!! 寺本 絵理、城山 芳子、米村 真砂美 (Genesis of Entertainment)	14:00
14:30～15:20 <b>口述発表10</b> 身体障害5 O10-1～5 座長：岡本 裕一	14:30～15:20 <b>口述発表11</b> 身体障害6 O11-1～5 座長：塗田 一雄			14:20～14:50 ♪ピアノ de ピア活動♪ 吉田 悠太郎(演奏者) 南 千恵(茨木病院ダイケアセンター)	15:00
					16:00
					17:00

# プログラム

教育講演1 10:00～11:20

大ホール(1階)

司会：辻 薫(大阪発達総合療育センター)

## 脳科学的知見を取り入れたヒトの理解 ー可視化によって了解可能な社会の実現をめざしてー

片山 泰一 大阪大学大学院 連合小児発達学研究所

教育講演2 11:30～12:50

大ホール(1階)

司会：酒井 浩(藍野大学)

## ニューロリハビリテーションの目指すべき方向性

森岡 周 畿央大学大学院健康科学研究科神経リハビリテーション学研究室  
畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター

府民公開講座1 14:00～15:20

大ホール(1階)

司会：松下 太(森ノ宮医療大学)

## 認知症の進行期別での作業療法の役割

### 1 中等度～重度の認知症の人への作業療法 ～精神科認知症治療病棟における挑戦～

河合 晶子 三重県医療保健部長寿介護課 地域包括ケア推進班

### 2 急性期病院における認知症に対する作業療法の役割

仙波 梨沙 西九州大学リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

### 3 生活期(維持期)のかかわりで私が大切にしている“作業(さ行)”とは

上田 章弘 介護老人保健施設 恵泉

### 4 回復期リハビリテーション病棟での作業療法士の関わりについての考察

木瀬 憲司 社会医療法人大道会 森之宮病院 リハビリテーション部

府民公開講座2 14:00～15:20

B会場(2階 さくらホール東)

司会：西口 あずさ(高井クリニック)

## アメリカのスクール OT の現場から

スバシュニック 松田 直子 Montgomery County Public School. Maryland.

司会：辻 薫(大阪発達総合療育センター)  
コメンテーター：中村 春基(日本作業療法士協会 会長)

## リハビリテーションと街づくり

紀伊 信之 株式会社日本総合研究所 リサーチ・コンサルティング部門  
高齢社会イノベーショングループ グループ長

## 実践報告1 11:30～12:50

A会場(2階 さくらホール西)

司会：西口 あずさ(高井クリニック)

## 特別支援教育とOT ー学校で子どもを支える ～近畿圏での実践とこれからの課題～

奈良県士会	高畑 脩平(白鳳短期大学)
和歌山県士会	杉谷 武人(社会福祉法人愛徳園 愛徳医療福祉センター)
京都府士会	梅谷 敬子(宇治武田病院)
兵庫県士会	角谷 哲生(神戸市立いぶき明生支援学校)
滋賀県士会	阿部 真由子(大津市やまびこ総合支援センター, 知的障害児者地域生活支援センター)
大阪府士会	尾藤 祥子(藍野大学)

## 実践報告2 11:30～12:50

B会場(2階 さくらホール東)

司会：芳賀 大輔(ワンモア豊中)

## 就労支援を考える ～支援機関と企業の立場より～

### 「支援機関の立場から」

金川 善衛 茨木病院デイケアセンター

### 「企業の立場から」

奥脇 学 有限会社奥進システム 代表取締役

司会・進行：藤原 太郎, 浅田 健吾(大阪府作業療法士会 地域包括ケア委員会)

[ 地域包括ケア ]

ひと・まちを元気にできる OT の可能性  
～生活課題の解決に向けた近畿2府4県の実践報告～

滋賀県士会	深津 良太(介護老人保健施設 リハビリセンターあゆみ)
京都府士会	森 志勇士(訪問看護ステーション 開く)
奈良県士会	河野 隆(ユウティール訪問看護ステーション)
和歌山県士会	藤田 講志(紀州リハビリケア訪問看護ステーション)
兵庫県士会	金剛丸 朋子(第二協立病院)
大阪府士会	大山 勝範(千里中央病院)

司会：関本 充史(株式会社かなえるリンク)

【災害支援対策事業】

災害支援対策事業報告

災害支援対策チーム

市田 忍 京都府士会

【バリアフリー展】

バリアフリー2018相談ブースの報告

大西 和弘 奈良県士会

【MTDLP】

生活行為向上マネジメント

西井 正樹 奈良県士会

【認知症支援事業】

近畿作業療法士連絡協議会連携事業「認知症支援チーム」  
～各府県士会の動き～

松下 太 大阪府士会

痙縮に対するボツリヌス療法

三岡 信二郎 グラクソ・スミスクライン株式会社 MSL スペシャルティ・ジェネラルケア部

協力：グラクソ・スミスクライン株式会社

## 随意運動介助型電気制御装置と装具療法を用いた 脳卒中片麻痺の上肢機能アプローチ

竹林 崇 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業療法学科

協力：川村義肢株式会社

司会：内藤 泰男(大阪府立大学)

### 厚生労働省

## 「理学療法士・作業療法士学校養成施設カリキュラム等改善検討会」報告

高畑 進一 理学療法士・作業療法士学校養成施設カリキュラム等改善検討会 構成員  
大阪府立大学 地域保健学域 総合リハビリテーション学類 作業療法学専攻

### 近畿作業療法士連絡協議会 連携4事業

- ①みえる・わかる展示コーナー：バリアフリー展での推進活動  
災害対策部門特別展示
- ②伝える・伝わる相談コーナー：認知症支援  
生活行為向上マネジメント(MTDLP)

# 一般演題(口述発表)

口述発表1 10:00～10:50

C会場(2階 会議室A・B)

[ 発達障害 ]

座長：松本 明歩(東大阪市立障害児者支援センター レピラ)

**O1-1** 施設で暮らす子どもへの支援課題  
—MTDLPにより参加が広がった重症心身障害児を通して—  
桃川 里菜 大阪発達総合療育センター

**O1-2** 入所児施設から外出で得られる社会性  
立石 喬之 社会福祉法人 恩賜財団済生会支部大阪府済生会 医療型障害児入所施設 大阪整肢学院

**O1-3** 医療的ケア児の在宅支援  
～在宅生活の実現と継続に必要なだったこと～  
飛地 洋美 大阪発達総合療育センター 訪問看護ステーションめぐみ

**O1-4** 重複障害のあるこどもの共同注意に関する研究  
須郷 尋美 大阪府立大学 総合リハビリテーション学研究科

**O1-5** 発達障害児の学習プログラム  
「夏休み！！宿題おたすけプロジェクト」の開発と実践  
—チームアプローチによる作業療法士の役割—  
田中 裕二 国立大学法人 奈良教育大学 特別支援教育センター,  
社会福祉法人 関西中央福祉会 平成リハビリテーション専門学校

口述発表2 10:00～10:50

D会場(2階 会議室C・D)

[ 発達・精神障害 ]

座長：吉田 文(大阪保健医療大学)

**O2-1** 幼児における食嗜好と保護者の対応に関する調査  
立山 清美 大阪府立大学

**O2-2** 自閉スペクトラム症幼児のコミュニケーションスキルと社会適応スキルの関連性  
中岡 和代 大阪府立大学 地域保健学域,  
大阪府立大学大学院

**O2-3** 統合失調症における会話量と精神症状、活動量との関連について  
福原 啓太 医療法人美喜和会 美喜和会オレンジホスピタル,  
大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究科

**O2-4** セルフエフィカシーに違いがある2症例における、  
セルフエフィカシーと遂行機能との関連についての検討  
麻野 智咲 公益財団法人 浅香山病院

**O2-5** 対人交流技能向上における作業療法の特性  
～二者から三者関係への移行をつなぐ作業療法の一例～  
森本 宏樹 特定医療法人栄仁会 宇治おうばく病院

- O3-1** 生活行為申し送り表を用いた情報提供について1事例を通じた検討  
浅田 健吾 株式会社コンパス イーリハ東大阪訪問看護ステーション
- O3-2** 当院での生活行為向上マネジメントの取り組み  
～アンケート調査からみえてきたこと～  
植野 ひとみ 八尾はあとふる病院
- O3-3** 富田林市総合事業における訪問型サービスC事業への取り組み  
～自主練習により歴史探索が可能となった一症例～  
藤原 光樹 社会福祉法人 恩賜財団 大阪府済生会富田林病院
- O3-4** リハビリ特化型デイサービスの立上げに携わって  
～地域高齢者の在宅生活をよくする取り組みを目指して～  
三木 直人 社会福祉法人三秀會 リハ&トレデイサービス生野南いらか
- O3-5** パーキンソン病関連疾患に特化したデイサービスにおける家族会の有用性  
竹田 玲奈 PDリハビリデイサービスかなえるLIFE

- O4-1** 症例報告：肩軟部腫瘍の広範切除に対する急性期作業療法の経験  
脇田 喜芳 滋賀医科大学 医学部附属病院 リハビリテーション部
- O4-2** 頸部リンパ節郭清と胸三角皮弁再建後に重度の肩関節可動域制限を起こした症例  
大道 克己 姫路赤十字病院
- O4-3** 皮膚筋炎を呈した症例に対する目標合意に向けた関わり  
馬場 千夏 京都大学医学部附属病院 リハビリテーション部,  
京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 博士後期課程
- O4-4** 共感と内受容感覚との関連  
田中 宏明 大阪府立大学 地域保健学域
- O4-5** 国際協力・交流におけるグローバル人材育成の現状と課題  
山本 清治 箕面学園福祉保育専門学校 作業療法学科,  
日本作業療法士協会 国際部

## [ 地域 ]

座長：安井 敦史(株)UTケアシステム)

- O5-1** 市民の自主的な活動を支援するなかで役立つOTの視点  
～地域の集まりの場「心のリフレッシュ喫茶」に専門職がいること～  
山田 直満 千里津雲台訪問看護ステーション
- O5-2** 訪問作業療法における道具を活用した支援の実際  
～神経難病および小児疾患を有する方への臨床実践から～  
小林 大作 紀州リハビリケア訪問看護ステーション
- O5-3** 姿勢および食事環境の胸郭部と摂食状況への影響  
～嚥下内視鏡検査を用いた筋萎縮性側索硬化症患者一例での検討～  
寺本 千秋 紀州リハビリケア訪問看護ステーション
- O5-4** 作業の形態・意味・機能に着目した介入によって  
訪問・通所リハビリを卒業した一事例  
渡邊 潤 社会福祉法人 和貴会 介護老人保健施設 スローライフ八尾
- O5-5** 大阪府作業療法士会 地域局 泉州ブロック 活動報告  
『地域支援』～地域活動支援推進部～  
蔦本 尚展 社会医療法人三和会 永山病院

## [ 身体障害2/教育 ]

座長：岡山 友哉(京都民医連中央病院)

- O6-1** 退院前家屋訪問で「意味のある作業」を行うことの有効性について  
澁谷 麻友 兵庫医科大学 ささやま医療センター リハビリテーション室
- O6-2** 意味のある作業が特発性ジストニア症例に与えた影響  
南 勝也 医療法人大植会 葛城病院
- O6-3** 心地よい食事介助を目指して  
～先行期に対するアプローチを実践し食事摂取量の増加が図れた症例～  
佐平 安紀子 社会福祉法人 関西中央福祉会 平成リハビリテーション専門学校
- O6-4** 作業療法士による就職活動のための身だしなみ相談  
～個人レッスンを試みて～  
林部 美紀 大阪保健医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科
- O6-5** コミュニケーションが苦手という実習生への  
生活行為向上マネジメントを活用した支援の試み  
神谷 克二 公益財団法人白浜医療福祉財団 白浜はまゆう病院

[ 精神・認知機能 ]

座長：前谷 一旗(医療法人社団順心会 関西総合リハビリテーション専門学校)

- 07-1** 認知機能からみた身体認識と自己効力感の乖離の要因  
—在宅生活継続の判断基準の一助として—  
黒崎 秀彰 ひめじ地域支援リハビリ訪問看護ステーション
- 07-2** BPSD の発現する文脈とその内容に焦点を当てた観察チェックリストの試用  
—重度認知症者の興奮行動の変化に着目した一例—  
永田 優馬 医療法人晴風園 今井病院,  
大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究科
- 07-3** 抑うつ傾向軽減を目的に感覚遊びを利用した関わりを試みた一事例  
西谷 美智子 社会福祉法人 関西中央福祉会 平成リハビリテーション専門学校
- 07-4** 精神科救急病棟における作業療法の役割  
～現実感を取り戻していくプロセス～  
芝 あゆみ 特定医療法人栄仁会 宇治おうばく病院
- 07-5** 精神障害者に対する WellnessRecoveryActionPlan(元気行動回復プラン)の  
有用性 ～自己効力感の側面から～  
濱口 真子 NTT 西日本大阪病院 神経科 デイケア

[ 身体障害3 ]

座長：毛利 陽介(白鳳短期大学)

- 08-1** ギオン管内で挫滅断裂した尺骨神経に対し神経再生誘導チューブを用いた  
症例の作業療法  
津曲 由季 医療法人春秋会 城山病院
- 08-2** THA 術後翌日からの OT 介入について  
坂口 宏彰 地方独立行政法人 りんくう総合医療センター
- 08-3** 多期にわたる機能再建術を要した全型腕神経叢損傷患者のリハビリテーション  
小林 由佳 近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション部
- 08-4** 当院での母指 CM 関節症に対する関節形成術後の経過報告  
西宗 静香 社会医療法人栄公会 佐野記念病院
- 08-5** 術後感染により母指の伸展不全が生じた  
右母指 CM 関節脱臼骨折患者に対する作業療法の経験  
遠近 太郎 社会医療法人仙養会 北摂総合病院 リハビリテーション科

## [ 身体障害4 ]

座長：西田 裕希(医療法人南労会 紀和病院)

- O9-1** 実生活に即した訓練を通して良好な視覚的判断が可能となった  
視覚性注意障害の一症例  
能美 昇太 医療法人樹徳会 上ヶ原病院
- O9-2** 依存的な関係から脱却し ADL 自立を目指した症例  
桐畑 将司 医療法人恒仁会 近江温泉病院
- O9-3** 回復期脳卒中患者のアパシーに対し、既往のうつ病を考慮した介入を行い  
排泄動作が自立に至った症例  
南 由姫乃 医療法人尚和会 宝塚リハビリテーション病院
- O9-4** ADOC の目標設定をもとに麻痺手の改善と日常生活下の使用を図った事例  
坂手 佑輔 地方独立行政法人 奈良県立病院機構 奈良県総合リハビリテーションセンター
- O9-5** 趣味活動に着目した関わりを通して不安感が改善した症例  
～「正座出来て良かった！」社会参加の意義～  
石塚 みのり 地方独立行政法人 奈良県立病院機構 奈良県総合リハビリテーションセンター

## [ 身体障害5 ]

座長：岡本 裕一(特定医療法人社団御上会 野洲病院)

- O10-1** 日本版 ADL-focused Occupation-based Neurobehavioral Evaluation (A-ONE)  
の神経行動学的障害尺度の Rasch 分析を使用した内的妥当性の検討  
東 泰弘 関西リハビリテーション病院 療法部,  
大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究所
- O10-2** 40歳代で遺伝性 CAA を疑われた一症例  
笹木 庄吾 奈良県立医科大学附属病院 医療技術センター リハビリテーション2係
- O10-3** 重度表在感覚障害を呈した脳卒中患者に対する末梢神経電気刺激の試み  
—シングルケースデザインによる検討—  
大橋 薫乃 医療法人盈進会 岸和田盈進会病院
- O10-4** 急性期脳卒中後上肢麻痺に対する手指機能治療ロボットを用いたアプローチの試み  
川崎 茜 医療法人社団六心会 伊丹恒生脳神経外科病院
- O10-5** 我々の報告してきた手関節運動の客観的解析法の有効性  
—上肢運動の簡易的機能評価法との比較検討—  
鈴木 志歩 医療社団法人 順心会 順心リハビリテーション病院

[ 身体障害6 ]

座長：塗田 一雄(神戸リハビリテーション病院)

**O11-1 SNS を通じて他者交流を支援した事例  
～回復期病棟退院後の生活を見据えて～**

市井 涼佳 医療法人鴻池会 秋津鴻池病院

**O11-2 C3 頸髄損傷者の人工呼吸器管理下からの離床と環境調整  
～車椅子座位とスマートフォン操作の獲得を目指した一例～**

岩倉 慶和 地方独立行政法人大阪府立大学病院機構 大阪急性期・総合医療センター

**O11-3 自転車の修理・整備を通して入院中に復職の準備を  
効率的に進めることができた一症例について**

金星 聡 地方独立行政法人 奈良県立病院機構 奈良県総合リハビリテーションセンター

**O11-4 課題指向型アプローチを通して復職を目指した症例**

田村 恭佑 医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院

**O11-5 「絶対に連れて帰る」その気持ちを支えるために**

村山 一朗 社会福祉法人関西中央福祉会 平成リハビリテーション専門学校

# ポスター演題

ポスター発表1 10:00～10:50

ポスター会場(1階 ギャラリー)

[ 身体障害1 / その他 ]

**P1-1** 慢性期脳卒中患者の上肢近位筋に対する在宅 IVES 療法と BATRAC の併用効果  
～ Transfer package を用いて～

狩野 遣斗 ポシブル医科学株式会社 訪問看護ステーションポシブル飛鳥

**P1-2** 「この指はもう伸びない」から「ゴルフクラブを握りたい」  
～外来作業療法で段階的な目標設定により  
麻痺側手指の使用頻度向上を認めた症例～

小川 聖 医療法人社団甲友会 西宮協立脳神経外科病院

**P1-3** 回復期脳卒中患者の麻痺側手指拘縮に関する PAG-RE の効果検証

與 祥子 医療法人尚和会 宝塚リハビリテーション病院

**P1-4** 右前頭葉皮質下病変により左片麻痺に対する病態失認を呈した症例の病態分析

中田 佳佑 医療法人友誼会 西大和リハビリテーション病院

**P1-5** 道具使用障害を認めた左頭頂葉損傷症例に対する多角的評価に基づく病態推論

南川 勇二 医療法人友誼会 西大和リハビリテーション病院

**P1-6** 半側空間無視と言語障害を併発した右半球損傷者の多角的病態分析

森本 直子 医療法人友誼会 西大和リハビリテーション病院

**P1-7** 当院脳卒中センターでのウォーキング ADL カンファレンスと作業療法士の役割

羽倉 千夏 地方独立行政法人 京都市立病院機構 京都市立病院 リハビリテーション科

**P1-8** iPad を用いた WEB 版打点検査の成績と認知検査との関連

亀井 大作 四條畷学園大学 リハビリテーション学部

**P1-9** 通年開催した災害時リハビリテーション支援活動研修会報告  
—平成29年度の大阪府での取り組み—

中野 皓介 大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会,  
摂津市保健センター, 大阪府作業療法士会

ポスター発表2 11:00～11:50

ポスター会場(1階 ギャラリー)

[ 身体障害2 / 精神障害 ]

**P2-1** 失語症によるコミュニケーション障害を呈した症例に対し  
退院後の生活や復職を見据えて関わった一症例

前田 暁美 京都大学医学部附属病院

**P2-2** 回復期リハビリテーションのゴールは退院だけじゃない！先の生活も見据える！  
脳卒中を再発した片麻痺患者に対してチームアプローチした症例

入江 泰司 社会医療法人 大道会 森之宮病院

**P2-3** 自動車運転の再獲得により復職に至った症例  
～停止車両評価を踏まえた運転支援～

石丸 大貴 医療法人晴風園 今井病院、  
大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究所

**P2-4** 誤嚥性肺炎加療により廃用症候群、BPSD に悩まれるケースの  
在宅復帰を支援できた一例

山本 麻里絵 医療法人甲風会 有馬温泉病院

**P2-5** 回復期リハビリテーション病棟入院患者における院内余暇活動の取り組みと  
日常生活活動能力の関連性について

高橋 央明 医療法人社団松下会 東生駒病院

**P2-6** 環境設定や家族との協働支援による退院後から生活安定に向けての関わり

斉藤 啓太 社会医療法人 大道会 森之宮病院

**P2-7** 下肢リンパ浮腫の既往があり、人工股関節全置換術を施行した事例の作業療法

常深 志子 地方独立行政法人 市立吹田市民病院

**P2-8** 個別面談を通じて問題点を把握しリワーク施設へ繋いだ初発統合失調症患者の事例

花崎 将樹 医療法人 桜花会 醍醐病院

**P2-9** 依存心の高い統合失調症患者が自律して就労継続するための作業療法士の役割

那須 かがり 医療法人 桜花会 醍醐病院

**ポスター発表3** 13:00～13:50

ポスター会場(1階 ギャラリー)

[ 発達障害／地域 ]

**P3-1** 重症心身障害児・者施設でのグリーンケアにおける作業療法士の役割  
—事例を通じた考察—

山本 菜名美 社会福祉法人枚方療育園 枚方総合発達医療センター

**P3-2** お箸操作の獲得に向けて、把持・操作パターン分析をもとに  
自助具のマネジメントをした一例

松田 大輔 社会医療法人 大道会 森之宮病院

**P3-3** 低緊張の発達障害児に対する傾斜板を用いた視覚・運動協応への効果

早川 貴行 医療法人社団 淡路平成会 平成病院

- P3-4** スイッチ操作による園芸への取り組み  
北野 真奈美 関西学研医療福祉学院
- P3-5** 学校園における効果的な訪問支援の在り方と課題について  
—訪問支援事例を通して—  
平田 瑞希 子ども発達スクール かすたねっと
- P3-6** 通所型サービス C における目標設定を重視した作業療法士の関わり実践報告  
—作業療法士の視点を導入した多職種で連携する  
介護予防ケアマネジメントへの関わり—  
由利 緑巳 関西福祉科学大学,  
大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究科
- P3-7** 通所型サービス C における作業療法士の役割の検討  
—症例報告—  
久保田 奈美 介護老人保健施設 パークサイドなごみ
- P3-8** 通所型サービス C において具体的な目標設定を共有したことで  
地域での活動参加へとつながった—症例  
中西 遥 大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学研究科
- P3-9** 大阪府作業療法士会地域局泉州ブロック活動報告  
『横のつながり』～泉州 OT 懇話会～  
佐川 雅俊 葛城病院
- P3-10** 世代間交流の実践報告と今後に向けて  
泉浦 文哉 株式会社多聞 デイサービス道夢,  
株式会社多聞 KiddyT スクール

# アート・パフォーマンスセッション

(2階 小ホール)

---

10:00～10:30 **アートを通じて地域と関わる**

木村 基 紙囃みクラブ 代表

---

10:40～11:10 **けん玉という作業を体験しよう**

村橋 大輔 社会福祉法人慶生会 慶生会訪問看護ステーション四條畷出張所

---

11:20～11:50 **ニューロダンス**

橋本 弘子 森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科

---

12:00～12:30 **OT フラ**

今 かおり (OT フラダンサーズ代表) 社会福祉法人和悦会 加美北特別養護老人ホーム

---

13:00～13:30 **有畜農業を取り入れた循環セラピー  
～ホースキッズスクール(乗馬療法)+リトルファーマーズ(園芸療法)～**

菅 寿恵 子ども発達スクールかすたねっと

---

13:40～14:10 **車いすダンス！！**

ジェネシス オブ エンターテイメント

寺本 絵理 わかくさ亀間リハビリテーション病院

城山 芳子 日本橋老人訪問看護ステーション

米村 真砂美 リハビリ訪問看護ステーション ファミリア

---

14:20～14:50 **♪ピアノ de ピア活動♪**

吉田 悠太郎 茨木病院デイケアセンター 演奏者

南 千恵 茨木病院デイケアセンター 作業療法士

A series of horizontal dashed lines for writing.

教育講演  
實踐報告





## 脳科学的知見を取り入れたヒトの理解 —可視化によって 理解可能な社会の実現をめざして—

片山 泰一 大阪大学大学院 連合小児発達学研究所

### 学 歴

京都薬科大学修士 卒業  
大阪大学医学部 博士(医学)

### 職 歴

1990年 田辺製薬 研究員  
2000年 大阪大学医学部 助手(解剖学)  
2003年 トロント大学医学部  
博士研究員  
2009年～現在  
大阪大学大学院 大阪大・金沢大・  
浜松医大・千葉大・福井大 連合  
小児発達研究科 教授(平成24年  
度～平成27年度は、研究科長を  
務める)

### その他(活動や著書など)

公益社団法人 子どもの発達科学研究所  
理事長  
大阪府 特別参与(発達障がい施策担当)等

近年、「発達障がい」に関する様々な問題が社会で大きく取り上げられるようになりました。しかし、「発達障がい」に関する正しい知識・理解は、まだまだ進んでいないのが現状です。このような現状の中、今年4月から「障がい者差別解消法」が施行されました。この法律は、「障がい」をその人の持つ「機能障がい」として捉えるのではなく、「機能障がい」のことを考えずに作られた社会の障壁のこと(ハードル)を「障がい」とするという国際法「障害者基本法」に基づく考え方を踏まえて作られた法律です。つまり、「他人は、どこか必ず自分と違う」という一見当たり前のような事実を立てて考えることを求められています。「発達障がい」の人の中には、医療の力を借りなければ、生活が困難になるようなケースもあれば、周りの理解があれば、生活に困難さをほとんど感じずに過ごせる人たちまで様々です。しかし、周りから見て一見「普通」に見える「発達障がい」の人は、一見「普通」に見えるため、周囲に理解してもらうことが難しく、「わがまま」「変わっている」「しつけの問題」などと誤った周囲の理解のため傷つくことも多く、2次・3次障がいに発展してしまう方々が多いことも事実です。本講演では、「発達障がい」に関する基本のお話を脳科学的根拠に基づいた情報をもとに概説し、外から見てわかりにくい「発達障がい特性」を少しでも可視化して、本人も周りもその違いを客観的に知る方法(「かおテレビ」(ゲイズファインダー)等の最新機器も含め)について紹介し、自己と他者の違いをお互いが「共通の物差し」を通して、理解可能になることの重要性を知っていただきたいと考えています。そして、このような考え方の元、早期気づきと早期支援の必要性、そして、子どもとご家族に関わる支援者の方々をお願いしたいことを提言できればと思います。

# 一般演題

口述



# 01-1 施設で暮らす子どもへの支援課題 —MTDLPにより参加が広がった重症心身障害児を通して—

○桃川 里菜(OT), 上野 瑞季(PT), 松岡 佳歩(その他), 牛尾 実有紀(RN),  
和田 浩(MD)

大阪発達総合療育センター

Key word : 重症心身障害者, 生活行為向上マネジメント, 多職種チーム

**【はじめに】**生活行為向上マネジメント(以下, MTDLP)の重症心身障害児への適用事例は少ない。今回, 重症心身障害児者施設(以下, 重心施設)の入所児にMTDLPを用い, スクーリングが実現した。施設で暮らす子どもへの支援課題とMTDLPの適用について考察し, ご家族の同意を得て報告する。

**【事例】**10代男児。4才から当センター重心施設に入所している準超重症児。2才10ヵ月時, 原因不明の急性脳症から低酸素性虚血性脳症となった。

頸部の右回旋・後屈を強めた背臥位で過ごし, 脊柱は左凸側弯, 両肩・両股関節は脱臼していた。訪問授業と注入時の車椅子座位に適応しにくく, 脱臼した上肢の介助に注意を要した。周囲の人を注視し, 声かけに微笑み, 不快時は啼泣で訴えた。母親は月1回程面会し「いろんな経験をさせたい」と散歩に出かけ, 児は笑顔で口を動かした。

個別支援計画におけるチーム方針は「健康を維持して楽しく過ごす」で, 作業療法(以下, OT)では「誰に対しても要望を伝えられる」を目標に, 週3~5回の個別セラピィでパソコンの視線入力に取り組み, 訪問授業での練習を模索していた。

## 【経過】

**I期:**スクーリングの提案(X年11~12月) 担当教員と児の視線による意思表示について討議を重ねる過程で, スクーリングの提案があった。翌月の学校懇談で母親も「ぜひ参加したい」と希望され, スクーリングがチームの共通目標となった。

**II期:**MTDLPの導入(X+1年1~3月) しかし, 病棟からスクーリングを行った前例が少なく, 具体的な支援計画の立案が困難であった。そこで, MTDLPを用いて課題を整理した。抽出された問題点は「てんかん発作」「車椅子座位は2時間で啼泣」「母親の付き添い困難」であり, 強みは「快不快が表出できる」「介護タクシー利用可能」「看護師の付き添い可能」であった。OTは理学療法(以下, PT)と共に姿勢筋

緊張の調整と座位の適応促進に取り組むことになった。

## III期: 計画に基づく支援の実行(X+1年4~6月)

病棟職員と教員で日程調整し, 母親は介護タクシーを手配, PTとOTは座位の適応促進を継続して車椅子を設定, 言語聴覚療法は表情筋の賦活を図った。てんかん発作と座位耐久性には課題が残り, 教員と対応を確認した。

**【結果】**初回スクーリングが7月に実現した。児は初めての人・場所に興味を持ち, 歓迎の飾りや同級生を積極的に見た。母親も付き添いでき「良い思い出になった。遠足も行けたら…」と次の希望を語った。これを機に, 学期毎のスクーリングが継続し, 11月には修学旅行にも参加できた。

**【考察】**本事例の経過から, 施設で暮らす子どもの支援課題を考える機会を得た。

児の24時間の生活を支える病棟職員は交代勤務のチームで対応し, 一方, OTや教員は個別に関わるが部分的になりやすい。そのため, 児は意思表出しても, 様々な支援者に一貫して汲み取られることが難しかった。

また, 地域・家庭生活に自然と豊富に備わっている発達過程の生活行為が施設には少なく, その環境が日常となっている。そのため, 母親の「いろんな経験をさせたい」という要望を, チームは具体化することが難しかったと考えた。

これらの背景から, 支援者は児の心身機能にのみ焦点をあてやすく, OTでは視線の利用を模索していた。今回, スクーリングの話題を機にチーム支援が展開したのは, 障害の有無に関わらず本来親子が経験するであろう作業の一つに焦点が当てられたことで, 施設で陥りやすい支援の課題から抜け出せたためと考えた。

具体的な生活行為を目標とするMTDLPは, 本人主体の作業だけでなく, 子どもの発達課題の保障に繋がる可能性があることを学んだ。重心施設においても積極的に取り入れる必要があると考える。

## 01-2 入所児施設から外出で得られる社会性

○立石 喬之(OT)

社会福祉法人 恩賜財団済生会支部大阪府済生会 医療型障害児入所施設 大阪整肢学院

Key word：外出訓練，社会性，発達

【はじめに】当院は医療型障害児入所施設で2歳から18歳と幅広くおり、身体障害に加え知的障害を併せもつ児童が多い。入所から退所までの期間は15年以上になる児童がほとんどである。院内の慣れた環境では生活リズムや身の自立を促すことができ、難しいことも職員に伝えられる児童が多い。しかし院外の不慣れた環境では消極的になり、問題解決の為の行動に移せる児童は僅かである。そこで外出訓練を設け、不慣れた環境でも自己選択ができるよう社会性向上を目指す。今回は外出訓練の中の1つの買い物訓練について報告する。

【対象児童】2016年度の入所児は90名おり、買い物訓練に参加している児童は10名である。買い物訓練の対象となる基準は、生活年齢は6歳以上で探索遊びができること、簡単な表出や理解ができること、外出を伝えたと反応があること、S-M社会生活能力検査（以下S-Mとする）で発達年齢1歳以上の結果を伴う児童である。

### 【目的】

1. 興味の幅を広げる
2. 等価交換を学ぶ
3. 意思を伝える

【訓練内容】買い物訓練は、毎月1回、1人に300円の予算で動機付けしやすい食べ物の購入に使用する。外出先は近くにある3店のコンビニエンスストアから児童が選択し、店内では、商品の探索、商品の選択、マナー、等価交換の基礎を学習する。併せて移動方法や交通ルールも一緒に学習する。購入後に帰院して職員に内容を報告し、選択した物を食べることで満足感と達成感を高め、意欲向上に繋げる。

【結果】行動の変化として外で手をつながなくとも職員の横を同じペースで歩行する、買い物袋を持ち続ける、商品の選択が早くなる、好みの物を見つけられるようになった。欲しい商品が見つけれない児童は、

職員に伝え一緒に探せるようになった。しかし、購入の際にお金を払うことを理解していても行動に移せる児童は少なく、声掛けを必要とした。意欲面では他の職員と買い物について話すことで承認が得られる話題が広がり、全児童が次の買い物を楽しみにするようになった。S-Mによる発達段階を、2016年度と2017年度の変化を比較すると、7～10ヶ月向上4人、2～4ヶ月向上2人、1～2ヶ月向上3人、変化なし2人と伸びている児童が多い。

【考察】買い物訓練で多くの児童が、社会性向上に繋がる結果が得られた。最も大きい要因は意欲の向上にあると考える。理由として、買い物ができた報告で他の職員とのやり取りが増えたこと、購入したものをすぐに食べ楽しめた為である。意欲が高まったことで、外出にもっと行きたいと訴えが増えたことにより学習に繋げやすくなり、行動に変化が表れたことでS-Mの結果も向上したと考える。行動に声掛けが必要な場面があることや、S-Mに変化が見られない児童がいた理由は、月に1度の少ない頻度では経験が積み重ねることが難しいこと、多様な職員が付き添うことがあり対応の統一ができず過介助になる部分があった為だと考える。しかしS-Mに反映されなかった児童も行動に変化が見られたのは、子どもたちにとって初めての経験を通し、どうすべきかを職員と一緒に試行錯誤できる機会になった為と考える。

【結論】院内生活の長い児童に、外出訓練の結果は得られた。社会性が高まると、当院を退所するにあたり進路先が増える結果にも繋がる為、継続する。S-Mの結果に変化のない児童に関しては、より細かく対応し、良い方法を考え進めていくとともに、職員間の連携を高める為に伝達方法を検討する。

【発表に関して】発表に際して、施設長の同意を得ています。

## 第38回近畿作業療法学会

### 学会組織

---

学 会 長	辻 薫	社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター
-------	-----	---------------------------

---

実行委員長	丹葉 寛之	学校法人 藍野大学
-------	-------	-----------

---

事務局長	巽 絵理	学校法人玉手山学園 関西福祉科学大学
------	------	--------------------

---

会 計	須貝 京子	社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター
-----	-------	---------------------------

---

実行委員	浅田 健吾	株式会社コンパス イーリハ東大阪訪問看護ステーション
	藤田 康雅	かなえるリハビリ訪問看護ステーション
	木瀬 憲司	社会医療法人 大道会 森之宮病院
	大山 勝範	医療法人 協和会 千里中央病院
	藤本 侑大	社会福祉法人 恩賜財団 大阪府済生会千里病院
	藤原 太郎	株式会社 和ごころ 和泉リハビリ訪問看護ステーション
	牟田 博行	社会医療法人 若弘会 わかくさ亀間リハビリテーション病院
	野崎 健	株式会社 E-my crew(エミクル) 笑みくる訪問看護ステーション
	中山 靖子	大阪市住吉区社会福祉協議会 住吉区地域包括支援センター
	木村 基	社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター
	西口あずさ	医療法人 高井クリニックこども発達サポートルーム「りいふ」

## 協賛一覧

- グラクソ・スミスクライン株式会社
- 川村義肢株式会社
- 学校法人 四條畷学園 四條畷学園大学
- 株式会社三菱総合研究所
- 丸善雄松堂株式会社
- 株式会社 Hopemillion 希望や訪問看護ステーション
- 株式会社かなえるリンク
- 学校法人大阪滋慶学園 大阪医療福祉専門学校
- 学校法人森ノ宮医療学園 森ノ宮医療大学
- NPO 法人日本学び協会 One more 豊中
- 学校法人玉手山学園 関西福祉科学大学
- 社会福祉法人愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター
- 本田技研工業株式会社

## 〈次期開催予定〉

### 第39回近畿作業療法学会

会 期：2019年6月30日

会 場：神戸ファッションマート  
(兵庫県神戸市東灘区向洋町中6丁目9)

担 当：一般社団法人 兵庫県作業療法士会

学会長：野田 和恵(神戸大学保健学研究科)

---

### 第38回 近畿作業療法学会

発行者：近畿作業療法士連絡協議会

事務局：関西福祉科学大学 保健医療学部内  
〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1  
E-mail：kinkiot38@outlook.jp

出 版：株式会社セカンド  
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F  
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025  
<http://www.secand.jp/>



